

自分自身と向き合い、本当にやりたいことを探そう

浅野成美 (アステラス製薬株式会社 合成技術研究所 研究員)

仕事のやりがい

薬の工業的合成方法の開発を行っています。薬を大量に工場で合成する場合、高価な試薬を使ってはいけない、環境を汚染する廃棄物を出してはいけないなど、研究室での実験と異なり大きく制約があります。無駄が少なく安価で、安全に薬を合成するにはどうすればいいか、日々頭を悩ませながら研究に取り組んでいます。大学での研究は新しいこと、今まで誰にもできなかったことを発見することが重要であり、役に立つか立たないかは二の次でした。しかし会社では新薬開発につながる研究でなければならないという点が大きな違いであり、やりがいであると感じます。いつか自分が考案した方法で新薬を合成し、患者様に届けたかと思いつつ仕事をしています。

仕事と生活のバランス

研究室にこもりきりだった学生時代の生活とは異なり、会社に入ってからプライベートの時間がきちんと確保されていると感じます。会社にいる時は仕事に集中していますが、仕事が終われば同僚と飲みに行ったり、休日は地元の仙台に遊びに行ったりと、十分に気分転換ができるので、今のところ仕事と生活のバランスで苦勞していることはありません。現在は独身ですが、いつか結婚したとしても、仕事と家庭を両立にできるような女性になりたいと思っています。

進路決定のきっかけ

高校3年生の時に通っていた予備校で、東北大学の名誉教授の先生から1年間有機化学の講義を受ける機会がありました。その講義で有機反応のメカニズムを学び、面白さにとりつかれ、将来は有機化学の研究をしたいと思うようになりました。有機化学を学べる学部として薬学部と理学部化学科が候補に挙がりましたが、アトピー性皮膚炎を患い薬に助けられた経験があったことから、薬学部に進学しました。大学院生の頃には大学に残ってアカデミックな道に進むか、企業に就職するかで悩みました。最終的には、自分の研究が直接製品へ繋がり、世の中へ出て行く様子を見られることに魅力を感じ、企業への就職を選びました。

進路選択に対してのメッセージ

大学受験、学科選択、就職など何度か重要な決断を迫られることがありました。そのような時はいつも、「後で振り返った時に後悔しないよう、今できる最善の選択をしよう」と思いながら決断を下してきました。そのため、たまに「あの特別の道に進んでいたらどうなっていたかな?」と考えることがありますが、「やっぱりああしておけばよかった…」と後悔したことは一度もありません。進路選択の際に、周囲の助言を聞くこと、多くの情報を集めることはもちろん大事ですが、最後は自分自身と向き合い、心の底から進みたいと思える道を選んでください。

<浅野成美 (あさのなるみ) プロフィール>

2006年 宮城学院高等学校卒業

2010年 東北大学薬学部創薬科学科卒業

2012年 東北大学大学院薬学研究科分子薬科学専攻修士課程修了

2012年 アステラス製薬株式会社入社

2010年4月から2012年3月までサイエンスエンジェルとして活動。

